

実体経済の動向

◇生産・出荷ともに着実な回復歩調

最近における生産、出荷の動向をみると、引き続きかなり根強い増勢を示している。これは、官公需や輸出の増加のほか消費や民間投資活動も次第に持ち直してきたことによるものである。すなわち、この間の動きをやや詳しくみると、まず官公需は、財政の対民間支払総額の増勢が1～3月ころに比べやや鈍化しているものの、公共事業関係費支出がいぜんかなりの増加を続けている点から推して、まず順調な増加を続けているものとみられる。また輸出も、機械(自動車、電機など)、合織、化学(合成樹脂)などを中心に引き続き底堅い動きを示している。これに加え消費も、生産活動の活発化に伴う時間外収入の増加や春闘による高率のベース・アップなどで、可処分所得が増加しているほか、中元商況の好調などにうかがえるように、このところ消費態度も幾分引きゆるんできていることなどから、次第に上向き傾向をたどっている。他方、民間投資活動についてみると、設備投資は一般資本財出荷の動きをならしてみると、このところかなりのテンポで増加しているこ

とや、先行指標である機械受注が電力業界からの受注減を除けば着実な増勢をたどっていることなどからみて、ゆるやかながらも回復歩調を続けているものとみられる。一方、在庫投資は、メーカーの仕掛品在庫投資を中心に生産規模の増加にほぼ見合う程度に増加しつつあるとみられる。製品在庫投資は在庫率がかなり低下(引締め効果浸透前のボトムの水準に接近)していることから、このへんではほぼ下げ止まるのではないかとみられるに至っている。メーカー国産製品原材料在庫投資や販売業者の在庫投資は従来の景気回復局面に比べれば落ち着いた動きを示している。

(生産——上昇基調)

5月の鉱工業生産(季節変動調整済み)は、前月比+1.4%と引き続き増加した。これを業種別にみると、石油、電気機械(発電配電機器、通信機械)など一部の業種が前月著増の反動もあって減産となったが、鉄鋼、一般機械をはじめ大半の業種では引き続き増加した。また、特殊分類別には、輸送機械(資本財)、建設資材、耐久消費財は減少を示したが、一般資本財が著増したのをはじめ、非耐久消費財、生産財もかなりの増加となった。

このほか、5月の特色的な動きをみると、輸出や消費需要の好調にささえられて、合成繊維、乗用車などが引き続き順調な伸びを示し、また生産調整緩和などによる製品原材料消費水準の上昇に

生産・需給動向(鉱工業)

(季節変動調整済み、増減率・%)

		40年				41年		
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
生 指 数		173.5	175.2	175.2	181.7	183.5	186.3	189.0
	前期(月)比	-0.4	1.0	0	3.7	1.9	1.5	1.4
	前年同期比	5.0	3.5	1.5	4.2	5.9	7.4	10.2
出 指 数		168.1	171.9	172.6	179.3	179.2	186.5	187.5
	前期(月)比	-0.9	2.1	0.6	3.9	0.7	4.1	0.5
	前年同期比	4.1	5.1	3.7	2.7	5.8	11.4	12.3
製 指 数		222.5	231.3	225.8	228.9	228.9	222.1	221.9
	前期(月)比	2.3	4.0	-2.4	1.4	2.3	-3.0	-0.1
	前年同期比	15.8	15.4	5.8	5.2	5.2	1.1	0.4
在 庫 指 数		130.9	133.1	131.0	127.7	127.7	119.0	118.3
	在庫率							

(注) 通産省調べ(35年=100)。在庫は期末在庫。前年同期(月)比は原指数による。

特殊分類別生産動向

(季節変動調整済み、前期(月)比増減率・%)

	40年				41年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
投資財	-1.0	0.3	-1.3	2.9	2.3	-0.6	2.9
資本財	-1.1	1.3	-2.2	3.4	1.0	-0.6	4.1
同(輸送機械を除く)	-2.9	0.3	-3.5	3.9	3.1	1.7	8.6
輸送機械	1.2	4.5	-1.9	3.0	-1.0	-3.6	-0.9
建設資材	-0.6	-2.0	1.2	0.8	5.5	-0.7	-0.3
消費財	-2.4	-0.1	2.9	4.1	2.0	-0.9	-0.1
耐久消費財	-0.8	0.8	0.2	8.2	4.5	0.1	-2.1
非耐久消費財	-3.1	-0.5	4.4	1.0	0.6	-0.4	1.3
生産財	0.9	1.2	0.3	4.8	2.2	3.1	1.0

(注) 通産省調べ(35年=100)。

伴い、鉄鋼一次製品、紡績糸、合成繊維原料などの生産財がかなりの増産となった。他方、物品税引下げの影響から4月に出荷が集中した耐久消費財は、メーカーの生産態度慎重化を映じて減少し、前月に大幅増産をみた石油製品や紙・パルプも、その反動からかなりの減産になるなどの動きがみられた。

なお、6月の生産(速報、季節変動調整済み)は、前月比+0.8%と引き続き増加した。業種別には鉄鋼、機械、窯業、石油、ゴムなどが増加しており、また特殊分類別には一般資本財、非耐久消費財が減少したほかは、各財とも増加した。

(出荷——着実な増加)

5月の鉱工業出荷(季節変動調整済み)は、前月比+0.5%と引き続き増加し、業種別には鉄鋼、非鉄などが減少した反面、一般機械は大幅な増加を示し、繊維、窯業、化学もかなりの増加となった。また、特殊分類別には耐久消費財の著減、資本財輸送機械の減少を除けば、一般資本財が大幅な増加となったのをはじめ、建設資材、非耐久消費財、生産財などいずれも増加した。

このほか、当月の目立った動きとしては、一般用蒸気タービン、水力タービンなど大型機械類の出荷が引き続き著増したほか、民間設備投資関連財である金属加工機械、化学機械、産業用精密機械などがかなりの伸びを示した。また、輸出の好

調を映じて、四輪車、自転車などが引き続き堅調に推移し、官公需関連業種では鉄道車両が前月減少の反動もあって著増をみたほか、土木建設機械もかなりの増加となった。

なお、6月の出荷(速報、季節変動調整済み)は、鉄鋼、非鉄、窯業、化学などを中心に前月比+0.7%の増加となった。特殊分類別には生産同様一般資本財が減少となったが、そのほかは輸送機械、耐久消費財をはじめ各財とも増加した。

(在庫——製品在庫調整は一段と進捗)

5月の鉱工業製品在庫(季節変動調整済み)は、前月比-0.1%とわずかながら減少した。これを業種別にみると、鉱業、化学などが増加した反面、機械、鉄鋼、セメントなどの各業種が小幅ながら減少した。また特殊分類別には、前月に大幅減少をみた耐久消費財が、当月もかなり減少したほか、一般資本財、資本財輸送機械も減少した。

5月のメーカー製品在庫率は、前記の出荷、在庫事情を映じ、前月比-0.6%と引き続きかなりの低下をみた。特殊分類別には、耐久消費財が前月の集中出荷の反動でかなり上昇したほか、非耐久消費財ならびに生産財もわずかながら上昇したが、資本財では、一般資本財、建設資材がかなりの低下を示した。

なお、6月の製品在庫(速報、季節変動調整済み)は、鉄鋼、電機、化学、石油、繊維などを中心に前月比-1.0%の減少となり、製品在庫率は116.3(前月比-1.7%)と引締め効果浸透前のボトム(39年3月、116.1)とほぼ同水準まで低下した。

5月のメーカー原材料在庫(製造業、季節変動調整済み)は、前月比+0.3%と小幅ながら引き続き増加した。国産製品原材料は、染色整理段階の織物、化学メーカーの製品原材料などが増加したものの、織物メーカーの糸、機械メーカーの鋼材、合繊メーカーの化学製品原材料などが減少したため、全体では-0.7%の減少となった。国産製品原材料在庫はここ2~3か月漸減傾向をたどっているが、これは最近における生産水準のかなり急速な上昇に伴い国産製品原材料の在庫補充が

特殊分類別出荷動向

(季節変動調整済み、前期(月)比増減率・%)

	40年			41年	41年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
投資財	-1.0	1.3	-1.2	5.9	1.1	2.9	1.3
資本財	-1.4	2.0	-2.1	7.6	0.4	4.1	1.3
同(輸送機械を除く)	-2.9	-0.8	-0.3	2.1	2.5	4.6	5.2
輸送機械	-2.6	6.6	-6.2	14.8	-1.0	3.2	-2.9
建設資材	-0.7	-0.7	1.2	1.4	3.3	-0.6	1.0
消費財	-2.4	2.2	2.3	1.4	0.1	5.5	-1.7
耐久消費財	-0.4	1.5	-2.3	0.4	-5.5	22.5	-8.1
非耐久消費財	-2.8	2.2	3.6	2.4	2.3	0.1	0.6
生産財	0.8	2.0	0.6	4.3	0.5	4.9	0.4

(注) 通産省調べ(35年=100)。

幾分遅れぎみになっているためとみられる。他方、輸入素原材料在庫は原油が減少をみたものの、鉄鉱石、非鉄鉱石、牛皮などの増加を主因に前月比+0.7%の増加となった。

なお、5月の原材料消費は、鉄鋼、化学、石油製品などで減少した反面、繊維、非鉄をはじめ多くの業種で増加したため、前月比+1.1%の増加となった。この結果、原材料在庫率は72.8と前月に比べ-0.6%の低下となった。

次に4月の販売業者在庫(季節変動調整済み)をみると、前月比-3.4%とかなり減少した。素原材料は綿花、羊毛など輸入分を中心に+12.5%の著増となったが、製品在庫は鋼材がユーザーの買進みにより引き続きかなり減少したほか、自動車も新車、モデル・チェンジ車の発売などによる売行き増から著減したため、-4.7%と大幅な減少を示した。なお、上記販売業者在庫に含まれていない機械類の在庫は、先高見込みなどから一部商社の思惑買ひもみられ、前月比+8.9%と引き続き大幅に増加した。

(設備投資——ゆるやかながら回復歩調)

5月の設備投資の動きを一般資本財出荷の面からみると、通信機械などの電気機械は前月増加の反動もあって減少したが、そのほかではボイラーおよび原動機の著増をはじめ、土木建設機械、金属加工機械、化学機械、運搬機械などがいずれもかなり大幅な伸びを示した。なお、6月の一般資本財出荷(速報)は前月比-2.7%減となったが、3か月移動平均によってならしてみると、3月-1.2%、4月+4.1%、5月+2.3%と着実な回復歩調をたどっている。

他方、先行指標である5月の機械受注(海運を除く民需、季節変動調整済み)は、前月比-3.8%とかなり減少したが、これは電力業界からの受注が前月に引き続き著減したことによるもので、製造業からの受注は前月著増(+12.1%)のあと、当月も機械、鉄鋼、化学などを中心に、+1.4%の増加となった。また、非製造業のなかでも建設業からの受注は漸増傾向をたどっている。

以上のような一般資本財出荷の増加傾向や機械受注の動向などからみて、設備投資は基調としては緩慢ながらも増加傾向をたどっているものと思われる。

需要関係の指標

	40年		41年	41年		
	9月	12月	3月	3月	4月	5月
素原材料在庫 (在庫率)	114.6 (75.0)	114.2 (72.4)	117.2 (72.6)	117.2 (72.6)	119.4 (72.8)	121.3 (73.9)
うち輸入分 (在庫率)	119.7 (71.6)	121.2 (69.7)	121.8 (69.6)	121.8 (69.6)	126.2 (70.6)	127.1 (71.6)
製品原材料在庫 (在庫率)	133.9 (81.6)	134.6 (78.5)	139.1 (79.2)	139.1 (79.2)	138.0 (77.6)	137.3 (75.6)
販売業者在庫	194.6	196.3	205.9	205.9	197.6	—

	40年		41年	41年		
	7~9 月平均	10~12 月平均	1~3 月平均	3月	4月	5月
機械受注(海運を除く民需、 同季節調整済み)	623 (591)	602 (635)	694 (653)	978 (689)	597 (646)	629 (622)
資本財出荷(輸送機械を除く)	173.2	172.7	176.4	173.1	181.0	190.4

(注) 在庫、出荷は通産省調べ、季節変動調整済み指数(35年=100)。機械受注、販売は企画庁調べ127社分。

◇商品市況は、鉄鋼、繊維を中心に堅調

6月から7月前半にかけての商品市況をみると、銅が下げ止まり気配を強めたもののその他の非鉄は依然弱保合いを続け、砂糖もおおむね軟調に推移するなど、一部になお不さえの商品がみられたが、主力商品である鉄鋼、繊維がそろって大幅上伸を示したほか、セメント、紙、石油なども梅雨期ないし夏場の不要期を迎えているにもかかわらずほぼ保合いに推移するなど総じてみれば市況の地合いは一段と堅調の度を加えつつあるといえる。このような最近における商品市況の上伸をもたらした要因についてみると、①まず需要面では引き続き官公需の漸増に加え最近では民需全般にわたり回復傾向がうかがわれ、しかもそれが、予想以上のテンポで増加している。他方供給面ではこのような需要の増加にもかかわらず、各業界とも総じて控え目な生産態度を持続している。これらの結果全般的に需給事情が急速に改善され、鉄鋼など一部の需給関係は、かなり引締まりぎみとなっていることがその基本的な背景とみられるが、②さらに薄板などについては、これまで問屋および需要家筋が先安を見越して在庫を極力圧縮

してきたが、最近の市中品薄状態をながめ、高値をかまわず買い進む態度に出ていることが、相場の上伸をいっそう拍車する結果となっていることも見のがせない。

次に商品別の動きをやや詳しくみると、まず鉄鋼では7～9月期の粗鋼生産枠が4～6月期に比べ7%方拡大されたものの、引き続き生産調整が行なわれることとなり、これに対し、需要面では従来の官公需の増加に加え、最近は自動車、弱電、造船などをはじめとする民需も着実な増加を続けている。このため鋼板類を中心にメーカーの市中売り玉が著しく減少し、薄板、厚板が大幅に高騰したのをはじめ条鋼類も上伸するなど、ほぼ全面高商状を呈するに至った。

繊維でも綿糸が生産調整効果の浸透とインドネシア向け緊急援助の割当枠決定など輸出面の好材料から大幅上伸を示したのをはじめ人絹糸、そ毛糸なども秋冬物の需要期を控えた間屋、機屋筋の糸手当て活発化から上伸、特に生糸は春繭の減産、夏秋繭の減産予想から急騰するに至った。こ

のような糸市況の高騰を映じ人絹織物をはじめ織物相場も堅調に推移した。

次にセメントは官公需の増加に加え、最近是小口工事向け民需の増加がみられるほか、輸出も韓国、台湾向けを主に好伸していることなどから強含みに推移した。紙も生産調整が継続されているため不需用期にもかかわらずほぼ保合に推移した。また、これまで軟調を続けてきた石油も7月にはいり設備の定期修理による減産から強含みに転じている。化学では塩化ビニルが需要増を背景に強含みを示したほか、基礎薬品類も底入れ気配を濃くしている。この間、非鉄では銅が大口需要家の買い進み期待から下げ止まり気配を強めたものの、鉛、亜鉛は新設メーカーの生産開始に伴う供給過剰懸念からいずれも弱含みを示した。また砂糖も不況カルテル延長をめぐる業界の足並みの乱れを映じて依然軟調を続けた。

今後の市況動向については着実な需要の増加傾向とメーカーの控え目な生産態度持続から引き続き大勢強含み商状を続けるものとみられるが、薄

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエ イト	引 縮 め	引 縮 め	引 縮 め	40年7月	最 近 の 推 移						
		前 37/11 ～38/11	後 38/12 ～39/11	解 除 後 39/12 ～41/6	以降* 40/8 ～41/6	41年 4月	5月	6月	6月 上旬	中旬	下旬	7月 上旬
総 平 均	100.0	+ 3.7	- 0.7	+ 4.4	+ 4.4	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.6	+ 0.3	- 0.1	+ 0.2	+ 0.1
食 料 品	16.4	+ 9.2	- 4.0	+ 8.3	+ 4.4	+ 0.3	- 0.7	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1	- 0.2
織 維 品	12.9	+ 11.1	- 6.7	+ 1.7	+ 3.1	- 0.5	+ 0.1	+ 1.1	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.6
鉄 鋼	10.2	+ 4.2	- 0.5	- 1.5	+ 1.4	+ 0.7	- 0.3	- 0.3	- 0.2	保 合	+ 0.2	+ 0.6
非 鉄 金 属	4.5	+ 1.1	+ 19.9	+ 40.2	+ 42.1	+ 2.8	+ 3.5	+ 2.4	+ 1.1	- 1.0	+ 0.1	- 1.1
金 属 製 品	3.5	+ 0.2	+ 3.6	+ 1.6	+ 1.1	+ 0.2	+ 0.8	+ 0.4	保 合	- 0.2	+ 1.7	保 合
機 械 器 具	20.2	- 1.4	- 0.4	+ 0.7	+ 1.0	- 0.1	保 合	+ 0.1	保 合	+ 0.1	保 合	保 合
石 油 ・ 石 炭	5.2	+ 0.8	- 0.8	- 0.4	- 2.2	- 0.4	- 0.8	- 0.3	- 0.1	保 合	保 合	+ 0.2
木 材 ・ 同 製 品	6.1	+ 3.6	- 1.1	+ 8.5	+ 10.3	- 0.3	+ 0.3	+ 2.7	+ 2.1	+ 0.2	+ 0.6	+ 0.7
窯 業 製 品	3.0	- 0.2	- 1.5	+ 3.0	+ 2.3	+ 0.8	+ 0.4	+ 0.1	保 合	保 合	保 合	保 合
化 学 品	7.4	- 0.2	+ 2.3	- 2.2	- 1.9	- 0.3	- 0.2	- 0.1	- 0.1	保 合	保 合	- 0.5
紙 ・ パ ル プ	3.3	+ 6.4	+ 2.7	- 0.6	+ 2.4	+ 1.1	+ 0.7	+ 0.3	+ 0.2	保 合	保 合	+ 0.1
雑 品 目	7.5	同水準	+ 0.7	+ 3.6	+ 3.1	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.1	保 合	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.4
工 業 製 品	79.5	+ 2.9	- 0.8	+ 2.9	+ 3.6	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.5	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1
非 工 業 製 品	20.5	+ 6.3	- 0.4	+ 9.7	+ 7.6	+ 0.2	- 0.3	+ 0.7	+ 0.7	- 0.1	保 合	保 合
非鉄・食料を除く 総平均	79.1	+ 2.5	- 1.0	+ 1.4	+ 2.1	+ 0.1	保 合	+ 0.5	+ 0.3	- 0.1	+ 0.3	+ 0.3

* 印は40年中のボトム。

板、生糸などは、やや人気化した傾きも感じられるため、情勢によっては多少の下押し場面も生じようとする向きが少なくない。

(卸売物価——統騰)

6月の本行卸売物価は、前月比+0.6%と統騰した。木材・同製品および銅地金を中心とする非鉄金属が大幅に上伸(ただし後半月には再び反落)したほか、繊維、食料品、金属製品など軒並み上伸したためである。また、海外相場や、天候に大きく左右される非鉄金属、食料品を除いても、6月は+0.5%とかなりの上伸を示し、この結果今次引締め解除後の上昇率は+1.4%とその前の金融引締め期間における下落率(-1.0%)を上回るに至った。なお7月上旬も非鉄がかなり下落したにもかかわらず鉄鋼、繊維、木材の上伸から前旬比+0.1%と統騰した。

(消費者物価——反発)

6月の消費者物価(東京)は、前月比+0.8%と

消費者・小売・輸出入物価の推移

(単位:%)

	ウ ェ イ ト	前年度比 上昇率		最近の推移			最 近 の 年 月 同 比	
		39年 度平 均	40年 度平 均	41年 4月	5月	6月		
消 費 者 物 価 (東 京)	総 合	100.0	+ 4.7	+6.8	+3.1	-0.9	+0.8	+ 5.8
	(季節商品 を除く)	91.2	+ 4.6	+6.2	+1.7	+0.1	+0.3	+ 6.3
	食 料	43.1	+ 4.8	+8.1	+3.7	-2.8	+1.6	+ 4.2
	家賃地代	2.4	+ 9.0	+8.5	+2.1	+2.5	+1.8	+14.3
	公共料金	19.0	+ 3.8	+6.7	+4.5	保 合	保 合	+10.5
	自由料金	8.4	+11.0	+9.0	+5.3	保 合	+0.2	+ 7.9
	その他商品	27.1	+ 2.0	+3.1	-0.3	+1.3	+0.3	+ 3.2
	被 服	12.7	+ 2.1	+3.8	-0.5	+2.2	-0.5	+ 3.1
	光 熱	5.2	- 0.1	+0.4	-0.3	-0.2	保 合	+ 0.6
	住 居 雑 費	8.8 30.3	+ 4.1 + 6.5	+4.4 +7.5	+0.2 +4.7	+0.9 +0.1	+0.7 +0.4	+ 6.3 + 9.7
消 費 者 都 市 物 価	総 合	100.0	+ 4.8	+7.4	+2.2	-0.8		+ 4.8
	(季節商品 を除く)	91.1	+ 4.5	+7.0	+1.1	+0.1		+ 6.7
本 行 小 売 物 価	総 平 均	100.0	+ 2.6	+4.6	+1.6	-1.1	-0.1	+ 2.6
	(生鮮食品 を除く)	93.3	+ 1.9	+4.4	-0.2	保 合	+0.2	+ 3.0
本 行 輸 入 輸 出 物 価	輸 出		+ 0.8	-0.7	保 合	-0.1	保 合	+ 0.3
	輸 入		- 0.8	-1.0	-0.2	+0.1	+1.0	+ 2.8
	交易条件		+ 1.5	+0.3	+0.2	-0.2	-0.9	- 2.4

反騰した(前年同月比+5.8%)。これは前月反落をみた食料が野菜、くだもの、鶏卵を中心に反発し、住居費も家賃地代を中心に統騰したことによる。また5月の全都市消費者物価は前月比-0.8%となった。

6月の本行小売物価(東京)は、前月比-0.1%と小幅統落となった(生鮮食品を除くと+0.2%)。野菜の値下がり(注)による食料品の下落が主因であるが、このほか繊維、燃料も軟化した。

(注) 消費者物価(東京)と本行小売物価(東京)で野菜が逆の値動きを示しているのは、調査日の相違による。すなわち、消費者物価は毎月12日を含む週の水曜日、木曜日および金曜日の3日間のうちいずれか1日について調査しているのに対し、本行小売物価は食料品については各旬の旬初3日間、計9日間の平均価格をとっている。

(輸出入物価——輸入物価が統騰)

6月の輸出物価は前月比保合いとなった。繊維品が春繭の減産、綿糸についてのインドネシア向け緊急援助期待などから上伸したほか、金属も米国向け引合いの好調から堅調を示したが、反面食料品、化学品、雑品目は下落した。他方、輸入物価は前月比+0.1%と統騰した。これは銅地金ならびに銅鉱石、アメリカ大豆、カナダ小麦、米国製旋盤研削盤などが上昇したためである。以上の結果、交易条件は前月に引き続き-0.9%と悪化を示した。

◇經常収支の黒字増大

6月の国際収支は、資本収支が79百万ドルの大幅赤字となったものの、經常収支の受超が貿易収支の好調により110百万ドル(前月22百万ドル)と、大幅に増大したため、総合で30百万ドルの黒字となった。まず、貿易収支についてみると、その黒字幅は197百万ドルと、季節的事情から小幅化した前月(111百万ドル)に比べ著増を示した。季節変動を調整してみても、209百万ドルの黒字と前月の黒字幅(194百万ドル)を上回っており、大幅な黒字基調が続いていることに変わりはない。一方、貿易外収支は、運輸収支などが依然かなりの逆調となっているため、軍関係受取が引き続き前年を10百万ドル以上上回る水準を続けているにも

かかわらず、80百万ドルの赤字を示した。次に、資本収支では、長期資本が輸出延払い信用供与やインパクト・ローン返済の増高などから例月上回る逆調(64百万ドル)となり、また短期資本も石油輸入関係スタンドバイ・クレジット使用残高の減少を主因にかなりの赤字(15百万ドル)となった。

他方、金融勘定の動きをみると、為銀部門の短期資産負債バランスは輸出の好調を映じた輸出手形の保有増や海外金利高による自由円預金の流出などから、引き続き好転し、また公的部門でも外貨準備資産の増加を中心にポジションは好転した。

6月の輸出は、前年同月比で+12%、季節変動調整後で前月比+1%の増加と、引き続き順調な

国際収支

(単位・百万ドル)

	40年	41年	41年	41年		
	10~12月	1~3月		4~6月	4月	5月
経常収支	130 (95)	28 (11)	62 (47)	55 (22)	22 (27)	110 (92)
貿易収支	220 (165)	123 (62)	153 (134)	152 (119)	111 (117)	197 (165)
輸出	752 (691)	690 (604)	770 (689)	767 (670)	756 (695)	786 (702)
輸入	532 (526)	567 (542)	617 (555)	615 (551)	645 (577)	589 (537)
貿易外収支	△79 (△62)	△83 (△65)	△81 (△82)	△82 (△91)	△82 (△85)	△80 (△70)
移転収支	△11 (△8)	△12 (△9)	△10 (△5)	△15 (△6)	△7 (△6)	△7 (△3)
長期資本収支	△42 (△16)	△52 (△5)	△41 (△36)	△28 (△46)	△31 (△26)	△64 (△37)
(注1) 短期資本収支	△13 (20)	△4 (3)	3 (12)	5 (16)	2 (36)	15 (16)
誤差脱漏	△23 (△19)	18 (10)	0 (△4)	△28 (△29)	29 (2)	△1 (15)
総合収支	53 (80)	△2 (△10)	19 (19)	4 (△69)	22 (39)	30 (86)
(注2) 金融勘定	53 (80)	△2 (△10)	19 (19)	4 (△69)	22 (39)	30 (86)
外貨準備増減	46 (20)	1 (18)	△2 (24)	△11 (△34)	△2 (△6)	8 (△33)
その他	7 (60)	△3 (△28)	20 (△5)	15 (△35)	24 (45)	22 (119)

(注) カッコ内は前年同期(月)額、各期月平均。

- 金融勘定に属するものを除く。
- 金融勘定の△印は「外貨準備増減」では資産の減、「その他」では資産の減または負債の増を示す。

上伸を示した。商品別の動き(通関ベース)をみると、自動車、ラジオ、テレビ、合繊織物、合成樹脂など従来からの好調品目が引き続き輸出全体の伸びをさきえている。なお、船舶の輸出は、当月は引渡しの集中から前年同月を約5割上回ったが、ならしてみれば建造能力面の制約を主因に昨

輸出入指標(季節調整済み)の推移

(単位・百万ドル)

	国際収支			通関		信用状		輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 尻	輸出	輸入	輸出	輸入		
40年									
7~9月	717	531	186	732	684	594	304	756	649
10~12月	684	544	140	693	693	598	311	710	661
41年									
1~3月	773	558	215	788	741	643	328	800	687
4~6月	788	596	192	790	761	673	342	846	673
41年									
2月	735	557	178	745	761	663	320	807	667
3月	776	584	192	780	762	642	351	810	760
4月	772	599	173	781	763	667	349	855	612
5月	789	595	194	787	769	674	353	838	700
6月	800	591	209	801	752	678	323	846	707

(注) 季節調整はセンサス局法による。各期月平均。

輸出信用状の内訳

(単位・百万ドル)

	40年	41年	41年	41年		
	10~12月	1~3月		4~6月	4月	5月
食料	25 (+6)	29 (+34)	25 (+12)	22 (+8)	25 (+9)	27 (+20)
繊維製品	121 (+6)	113 (+1)	117 (+1)	110 (-4)	118 (-2)	120 (+9)
化学製品	42 (+23)	50 (+17)	51 (+25)	51 (+48)	51 (+38)	50 (-1)
金属製品	131 (+13)	143 (+8)	144 (+4)	135 (-5)	155 (+13)	142 (+5)
機械	162 (+33)	169 (+28)	187 (+31)	186 (+38)	188 (+16)	186 (+41)
その他	126 (+6)	130 (+8)	146 (+18)	141 (+24)	152 (+18)	144 (+13)
北米	247 (+29)	278 (+30)	295 (+22)	296 (+24)	304 (+21)	284 (+22)
欧州	70 (+12)	81 (+12)	73 (+12)	71 (+10)	72 (+6)	77 (+23)
アジア	178 (+11)	170 (-2)	182 (+9)	176 (+13)	195 (+12)	176 (+2)
その他	113 (-1)	105 (+4)	119 (+8)	101 (+1)	121 (+5)	134 (+19)
合計	607 (+15)	634 (+13)	669 (+15)	644 (+15)	691 (+14)	671 (+16)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。各期月平均。

輸入承認品目別内訳

(単位・百万ドル)

	40年	41年	41年	41年	41年	41年
	10~12月	1~3月				
食料	134 (+11)	129 (+9)	143 (+15)	148 (-5)	146 (+17)	136 (+49)
原材料	382 (+11)	401 (+22)	400 (+14)	392 (+7)	406 (+17)	403 (+18)
原綿	40 (+1)	38 (-3)	27 (-13)	33 (-2)	27 (-12)	20 (-28)
原毛	37 (+28)	34 (+22)	36 (+30)	32 (+19)	40 (+49)	35 (+22)
鉄鉱石	29 (+15)	36 (+30)	37 (+9)	34 (+18)	36 (-2)	40 (+13)
くず鉄	7 (-53)	8 (-28)	10 (-26)	8 (-40)	13 (+6)	11 (-38)
木材	42 (+42)	40 (+36)	52 (+37)	51 (+29)	52 (+47)	53 (+36)
石油	91 (+14)	99 (+21)	83 (+3)	90 (+1)	81 (+2)	79 (+7)
化学製品	40 (-2)	40 (+14)	42 (+2)	41 (+5)	40 (-11)	43 (+17)
機械	52 (-13)	45 (-6)	57 (-25)	42 (-55)	63 (-12)	68 (+3)
鉄鋼	8 (-40)	8 (-27)	10 (-27)	11 (-28)	9 (-24)	9 (-28)
その他	47 (-1)	50 (+22)	65 (+19)	67 (+24)	61 (+35)	66 (+4)
合計	662 (+6)	674 (+16)	717 (+8)	701 (-3)	725 (+12)	725 (+18)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率。

年末ごろから伸び悩みぎみとなってきている(前年同期比増加率は40年10~12月+4%、41年1~3月+0%、4~6月-11%)。

先行指標をみても、輸出信用状は前年同月比

+16%、輸出認証も同+11%と順調な増勢を示している。輸出先別にみると米国向けがこれまでと同様前年比2割増の水準を続けているほか、ラテン・アメリカ向けなども若干持ち直しぎみとなっている。

他方、輸入は、前年同月比で+10%、季節変動調整後で前月比-1%と、比較的落ち着いた動きを示した。品目別動向(通関ベース)をみると、木材、大豆、羊毛、銅、原皮などは趨勢的な輸入依存度の増大や海外市況の堅調から根強い増加を続けているが、その他は概して増勢がやや鈍っている。さる2月ごろから4月ごろにかけてかなり急速なテンポで増加してきた輸入が、ここ一両月、水準は高いもののほぼ横ばい状態となっているのは、年初来の原材料在庫補充の動きが一服ぎみとなったことを映じたものと思われる。

先行指標も、信用状は前年同月比+12%と増勢がやや弱まっている。輸入承認は同+18%とかなりの増加となっているが、当月の承認額には大口機械の延払い輸入分(22百万ドル)が含まれていることや前年同月水準が特に低かったことを考慮すると、実勢はそれほど高くはないと思われる。季節変動調整後の計数で見ても、前2~3か月の平均とほぼ同水準にとどまっている。このような諸事情からみて輸入の増勢は当面比較的ゆるやかなテンポで推移するものとみられる。